『東京大学言語学論集』**43** (2021.10) 45-68

along the way の意味・用法の記述

—on the way との比較から—*

平沢慎也
s-hirasawa@keio.jp

キーワード:捉え方　発話意図の一貫性　言語知識の単位　認知文法

要旨

本稿は along the way という表現の性質を（主に on the way との比較により）明らかにする。Along the way の意味は大まかには（on the way と同様に）「道のりの途中で」と記述できるが，より正確には「(長い時間のかかる）道のりの途中で」であり，along the way を使った場合には，the way の指示対象を長い時間のかかる道のりと捉える話し手の認識が示唆されることになる（この特徴は on the way にはない)。実例に現れる along the way の具体的な使用パターンには，(i)［somewhere along the way］「(長い道のりの）途中のどこかで」，(ii)［散らばった複数回の事象＋along the way］「(長い道のりの）途中で事象が大きな時間間隔をおいて複数回生じる」，(iii) ［計画していなかった事象＋along the way］「(長い道のりの）途中で計画していなかった事象が生じる」(e.g.［meet X along the way］，［there is X along the way］）などがある。これらのパターンでは，along the way 自体が持つ「長い道のり」の示唆と，along the way 以外の部分が持つ意味とが有意義な形で絡み合い，発話全体として発話意図の一貫性が保たれることになる。英語学習者が along the way を英語母語話者と同じように使えるようになるためには，(i)-(iii) に示したものを含め along the way よりも大きな塊を覚えること，そして，アウトプットの際にはその大きな塊の知識を参照するように心がけることが大切である。

1. はじめに

英語には along the way と on the way という 2 つのフレーズがある。大雑把に言えば，以下の例にあるように，どちらも「途中で，途中に」という意味を表す表現である。

(1)　Well, I'll be glad to take you home. But we'll have to make a few stops **along the way**.

(*Bewitched*, Season 4, Episode 16)

* 本稿の執筆にあたって助言をくださった「文法の意味」研究会の皆様，特にインフォーマントとして協力してくださった Ash Spreadbury 氏，コメンテーターを務めてくださった野中大輔氏，原稿の準備段階でたくさんのコメントをくださった萩澤大輝氏に感謝したい。また，on the way の例文をご教示くださった奥脇健太氏にも感謝を申し上げたい。

喜んでご自宅までお送りしますよ。ただ，途中で何箇所か寄らないといけないところがありますけどね。

(2)　［状況説明］警察官に連行されそうになっている Ramona のセリフ：
Can we stop for donuts **on the way**?[1]　(*Fuller House*, Season 3, Episode 13)
途中でドーナツ買うことできます？

なお，前置詞の along は「〈道など〉に沿って，〈道など〉に並行するようにして」の意味に加えて「〈道など〉を通って，進んで」の意味を持つ。たとえば We went along the river は文脈がなければ曖昧である。川に沿って並行するように歩いたとも解釈できるし，ボートを漕いで川を進んでいったとも解釈できる。(1) の along は後者の方の意味，すなわち「〈道など〉を通って，進んで」の意味で用いられている。

(1) と (2) は「空間的な移動の途中」であるが，「空間的な移動以外のプロセスの途中」の場合にも along the way と on the way が用いられる。

(3)　There were some obstacles **along the way**. But eventually my dream came true. I became an architect.　(*How I Met Your Mother*, Season 2, Episode 3)
途中，いくつか障害もあったけれど，やがて僕の夢は叶った。建築家になることができたんだ。

(4)　I suddenly felt overcome with grief and had to fight back tears. Why was I so upset? Hadn't I moved beyond Rachel's betrayal? I had a new boyfriend, new girlfriends, a new best friend in Ethan, and two babies **on the way**.　(Emily Giffin, *Something Blue*)
急にひどく悲しい気持ちに襲われて，必死に涙をこらえた。なにがこんなにも悲しいのだろう？　レイチェルに裏切られた辛さはもう乗り越えたはずじゃなかったのか。新しい彼氏もできた。新しい女友達も，それからイーサンという新しい親友もできた。お腹には双子の赤ちゃんもいる。

(3) の「途中」は，建築家になるという夢を実現するまでのプロセスの途中である。(4) の「途中」は，妊娠から出産までのプロセスの途中である。

このように，空間的な移動または非空間的なプロセスの「途中で，途中に」ということを言うのに along the way と on the way のどちらも使われるので，片方だけを覚えていれば十分であと思われるかもしれない。実際，日本の中学・高校では on the way についてはしっかり教わる一方で along the way については何の言及もされないということも珍しくないだろう[2]。しかし，実際にはどちらのフレーズも非常に頻繁に用いられるうえ，along the way の方が on the way よ

[1] アメリカには「警察官はドーナツを好んで食べているもの」というステレオタイプがあり，これはそのステレオタイプを踏まえての発話と思われる。
[2] ただし教室で言及される頻度は on the way よりも on one's way の方が高いかもしれない。

りも自然な場合もあるので，on the way だけを覚えていれば十分だと考えることはできない。そこで本稿では along the way の性質を（主に on the way と比較する形で）丁寧に記述し，英語学習者がこのフレーズを英語母語話者と同じように使えるようになるためにはどのような知識を持っていなければならないかを論じる[3]。

2. along the way の「本質」の探求

2.1. 連続・反復への着目

along the way と on the way の違いに言及している先行研究には小西編（2001: 1756-1757）がある。これによると，「途中に［で］」の意味を表すのには on the way が用いられるが，「特に行為の連続・反復を含意する場合」は along the way も用いられる。

(5) a. Dumber's curiosity led him to perform a series of stops and starts **along the way**.
ダンバーは（ついてくるオオカミへの）好奇心から途中何度も立ち止まったり走り出したりした。

b. We had a few problems **along the way**.
事を進めていくうちにいくつかの問題が出てきた。〔比喩的意味〕

（小西編 2001: 1757；ただし太字は引用者[4]）

(5a) の a series of stops and starts や (5b) の a few problems といった表現から分かる通り，これらの例文が描いている状況では「立ち止まったり走りだしたり」する事象や「問題が出て」くるという事象が複数回発生している。このような場合には along the way も用いられるというわけである（on the way でも問題ない）。この説明はすでに筆者が挙げた実例の (1) と (3) にも当てはまることを確認されたい。

2.2. 連続・反復への着目の問題点

しかし，along the way の実例の中には，このように事象の「連続・反復」に着目するだけでは説明がつかないものが多く存在する。たとえば以下の例では，途中で事象が連続・反復して起こるということは想定されていないと思われる。

(6) ［状況説明］語り手は，誰にも聞かれることなく Gale に話さなければならないこと

---

[3] 「英語学習者がこのフレーズを英語母語話者と同じように使えるようになるためには」と書いたが，「英語母語話者がこのフレーズを他の英語母語話者たちと同じように使えるようになるためには」と考えてもよい。日本で英語を外国語として勉強する学習者 A さんが英語母語話者たちと同じような英語を使えるようになりたいと思った場合に（そのような極端に高度な目標を掲げた場合に）知っていなければいけない英語表現の総体は，英語母語話者 B さんが他の英語母語話者たちと同じように英語を使えるようになるために知っていなければいけない英語表現の総体と何も変わらないからである。

[4] 以下の例では太字や下線による強調は原則として引用者による。

があるので, いつも待ち合わせしている場所とは違う場所(雪山にある古民家)に Gale を呼び出さなければならない。そのために語り手は前もっていつもの場所に行き，新しい待ち合わせ場所への道案内を (他の人には分かりにくいような形で) 残してある。以下は，語り手が新しい待ち合わせ場所に先に向かう場面。

If he decides to follow me at all, Gale's going to be put out by this excessive use of energy that could be better spent in hunting. […] After a couple of hours, I reach an old house near the edge of the lake. […] Then I sit on the tiny concrete hearth, thawing out by the fire and waiting for Gale. It's a surprisingly short time before he appears. A bow slung over his shoulder, a dead wild turkey he must have encountered **along the way** hanging from his belt.

(Suzanne Collins, *Catching Fire*)

もし仮にゲイルが私の後を追ってきてくれたら，「狩りでもないのに無駄に体力を使わせやがって」と怒るだろう。[…] 2, 3 時間して，湖畔にある古い家にたどり着いた。[…] 小さな暖炉のところに座って暖を取り，ゲイルを待つ。といっても，待ち時間はびっくりするくらい短くて済んだ。すぐにゲイルが現れたのだ。肩には弓がかけられている。ベルトには，来る途中で遭遇して仕留めたものと思われる野生のシチメンチョウがぶら下がっている。

(7)　［状況説明］語り手は 12 歳のときにバスでアメリカを横断するような長旅をして Hilltop という施設に行こうとしていた。

We knew that the cab to Hilltop would be fifteen dollars each way, so that meant I had only twenty dollars extra to buy food or anything else I might need **along the way**.

(Sarah Weeks, *So B. It*)

（バスの終点から）ヒルトップまでのタクシー代は片道 15 ドルということはもう調べてあったので，食べ物など途中で必要になるものを買うのに使えるお金として残るのは，たった 20 ドルという計算になる。

(8)　［状況説明］語り手は森の中での殺し合いのゲームに参加させられている。このゲームの参加者は tribute「贄」と呼ばれている。

I make my way back up the stream and follow the same path back to Rue's hiding place near the lake. **Along the way**, I see no sign of another tribute, not a puff of breath, not a quiver of a branch. (Suzanne Collins, *The Hunger Games*)

川を上って，来た道を戻り，湖の近くのルーの隠れ場所の方に向かう。途中，他の贄の気配はない。息のフッという音もしなければ，枝が震える様子もない。

(6) を詳しく見てみよう。この例における along the way の the way が指しているのは，話し手の誘導により Gale が歩くことになる経路である。この経路を進んでいく途中にシチメンチョウと「出会う」という事象が encounter という動詞で表されている。Gale が出会って撃ち殺したと思われるシチメンチョウの数は，a dead wild turkey とあることから 1 匹と考えられる。というこ

とは，シチメンチョウと出会うという事象の生起回数も 1 回のはずである。同様に，(7) における「食べ物以外に何か必要になる」という事象や，(8) における「何の気配も感じられない」という事象は，連続・反復しているものではないだろう。それでは，こうした例も含めて along the way の性質を説明するには，どのように考えたらよいのだろうか。

2.3. 長い時間のかかる道のりという捉え方

ここで我々に大きなヒントを与えてくれるのが次の英文である。

(9) He got shot a few times **along the way**, but survived. （作例）
彼は途中数回撃たれたが，死なずに済んだ。

英語母語話者のインフォーマントによれば，この英文の自然な解釈は狙撃と狙撃の間に結構な時間の間隔がある—言わば事象が時間軸上に散らばっている—という解釈であり，もしも間髪入れずに連続して狙撃されていた場合には (9) のように along the way を使うのは不自然である（それならば on the way の方がよい）。同様のことが小西編（2001）の挙げる (5) にも筆者の出会った実例 (1) と (3) にも言える。「反復・連続」の例に見えていた例が，実は，「反復・連続＋大きめの時間間隔（時間的な散らばり）」の例だったのである。

ここで，「何かの途中で，ある事象が，大きめの時間間隔をおいて反復・連続される」ということの背後に隠れた前提を確認しておきたい。その前提とは，その「何か」が長い時間のかかる道のり（以下，単に「長い道のり」）として捉えられているということである。道のり全体を進むのにかかる時間が長くなかったら，その道のりの中で大きめの時間感覚をおいて事象が繰り返し生起することは不可能である。たとえば，(9) における狙撃事象同士の間に大きめの時間間隔があるということは，必然的に，the way の部分が表しているのは長い道のりでなければならない。(3) では，建築家になることの障害となるものが大きめの時間間隔をおいて繰り返し出現したということであるから，必然的に，建築家になるための努力のプロセスは長い道のりでなくてはならない。

このように考えた上でもう一度，反復・連続が関与しないのに along the way が使われている実例 (6)-(8) を見直してみると，これらの例の話し手（語り手）は the way の指示対象を長い道のりとして捉えていると考えられることに気がつく。特に (6) では，the way が語り手にとっては片道 2 時間の大変な道のりであり，Gale に文句を言われそうだと思っていることが明示されている。(7) の the way の指示対象は「バスでアメリカを横断する道のり」であるから，話し手がこれを長い道のりとして認識している可能性は高い。(8) の the way の指示対象は，「自分を殺そうとする人たちが隠れている森の中を必死に，かつ慎重に，移動する道のり」である。話し手がこれを長い時間のかかる道のりと捉えるのは自然なことだろう。この例に関しては，さらに，I make my way back … というように [make one's way] 構文が用いられていることも重要である。[make one's way] 構文は，ロングマン英英辞典のオンライン版で以下のように定義され

ている。

(10)　‘to go towards something, especially when this is difficult or takes a long time’
（https://www.ldoceonline.com/dictionary/make-your-way）
「何かに向かって進んでいく，の意。特に，困難な移動や長い時間のかかる移動に関して用いる」

このように [make one’s way] 構文は困難を伴う移動や長い時間のかかる移動に関して使われやすい。この定義文では困難のケースと長時間のケースの 2 つに分けて記述がなされているが，移動に困難を伴うときは困難を伴わないときよりも同じ距離を進むのに長い時間がかかる（少なくともそのように感じられる）ものであるから，[make one’s way] 構文は長い時間がかかる移動に使われやすいと言える[5]。となると, [make one’s way] 構文が用いられている (8) において，along the way で想定されている道のりは長い時間のかかる道のりとして捉えられていると言ってよいだろう。このように，話し手が the way の指示対象を長い道のりと捉えているのであれば，複数の事象が生起していなくても，along the way を使うことができるのである。

ここで英語学習者にとって気をつけなければいけないことがある。それは，特定の表現と結びついた話し手の捉え方は，その表現を使用すると聞き手に伝わるということである[6]。そのため，その捉え方が発話内の他の箇所と関係していなかったり矛盾していたりするときには，その表現を用いると不自然になる。表現は発話意図の一貫性を保つ形で用いられるものだと言い換えてもよいだろう[7]。たとえば日本語で「ケチンボ」という表現はその倹約家に対するネガティブな捉え方と結びついている。そして「ケチンボ」という表現を用いるとそのネガティブな捉え方が聞き手に伝わる。このため，そのネガティブな捉え方が発話内の他の箇所と関係していなかったり矛盾していたりするときには，「ケチンボ」という表現の使用が不自然に響くか，または「ケチンボ」と発話意図の一貫性が取れるように調整して解釈される。(11) を見てみよう。

(11)　a.　ケチンボと結婚して今すごく窮屈。　（作例）
　　b. ?　ケチンボと結婚して今すごく幸せ。　（作例）
　　c. (?)　ケチンボと結婚してもうすぐ引っ越すの。　（作例）

[5] ある行為に困難や苦労を伴う場合にその行為が時間的に引き伸ばされて感じるという人間の感じ方は，仕事などから帰宅したときによく用いられる It’s been a long day!（ああ長い 1 日だった！）という英語表現にも現れている。勤務時間はいつも通り（たとえば 10 時間）だったとしても，次から次へと仕事が舞い込んできて大変だったり疲労感が強かったりすると，その時間がいつもよりも長かったように（たとえば 15 時間くらいあったかのように）感じられることがあるのである。
[6] 本多（2006）も参照されたい。
[7] 本稿の「発話意図の一貫性」は「談話の結束性（coherence）」と密接に関係する。

(11b) は (11a) に比べて不自然である。これは,「ケチンボ」により示唆されるネガティブな捉え方が, (11a) では「窮屈」の部分と合致するのに対して, (11b) では「幸せ」と矛盾しているからだと考えられる。(11c) は, 人によっては (11a) に比べて不自然に感じられる。これはネガティブな捉え方が, 発話内の他の箇所と関係しておらず, 悪目立ちしているように感じられるからだと考えられる。しかし, 人によっては (11c) が (11a) に劣らず自然に感じられる。そのような人は,「ケチンボと結婚したことにより, 家賃が高い現在のアパートに暮らし続けることが許されず, 引っ越すことになってしまった」というように, 発話意図の一貫性が保たれるように解釈しているのだと考えられる。(11c) が自然だという人も不自然だという人も, 発話意図の一貫性を求めていることは共通しているというのがここでのポイントである。

同じように, along the way を使う場合にも発話意図の一貫性は重要で,「長い道のり」という捉え方が発話内の他の箇所と有意義に絡み合っている必要がある。たとえば, ある英語学習用ウェブサイトに, 次の英文が自然であるかどうかという質問が寄せられていた。質問者が想定している状況は, ガイドとはぐれた外国人に対して道を教えるという状況である（'I wanted to help a foreigner looking for his guide'）。

(12) ? Go towards the church, you will meet your guide **along the way**.
(https://english.stackexchange.com/questions/134527/how-to-say-along-the-way-when-i-mean-it-literally；太字と容認度記号は引用者)
意図されている文意：「教会の方に向かって歩いていけば, 途中でガイドさんに合流できますよ」

この英文は「?」の印で示した通りやや不自然である。その理由はおそらく「長い道のり」という捉え方と関連し合う相手がこの発話内にないからだろう。日本語の (11c) と同じ意味で発話意図の一貫性が保たれていないのだと言ってもよい。(11c) は発話意図の一貫性が保たれるように調整した解釈が可能であったのに対して (12) ではそのような調整が難しいのは, (11c) と違って (12) は状況が比較的細かく特定されているからだと思われる[8]。

(12) をより自然な英文に修正するには, (13) のように, 道のりの長さの示唆がない on the way を使うという方法（当該のウェブページで提案されていた方法）のほかに, (14) のように somewhere along the way を使うという方法もある。

(13) Go towards the church, you will meet him **on the way** there.
(https://english.stackexchange.com/questions/134527/how-to-say-along-the-way-when-i-mean-it-literally；太字は引用者)
教会の方に向かって歩いていけば, 途中でガイドさんに合流できますよ。

[8] 状況, 解釈の調整, 容認性の関係については田中（2021）を参照されたい。

(14)　Go towards the church, you will meet your guide <u>somewhere</u> **along the way**.

（インフォーマント提供）

教会の方に向かって歩いていけば，途中のどこかでガイドさんに合流できますよ。

(14) のように somewhere を用いると along the way の使用が自然になるのは，somewhere の部分が「長い道のり」という捉え方と有意義に絡み合うからだろう。somewhere が示唆する「どこなのかは分からないけれど」という意味合いは，「長い道のりなのでどこなのかは分からないけれど」という風に，自然な形で「長い道のり」という捉え方と結びつく。このような理由で (14) の背後には一貫した発話意図が感じられるのである。

例文 (9) で，間髪入れずに複数回撃たれた場合に（on the way が認められる一方で）along the way が不自然になるのは，長い道のりという捉え方と共鳴する相手が文中に存在しないからだろう。一方で，狙撃と狙撃の間の時間間隔が大きい「時間的散らばり」の解釈では，大きな時間間隔をおいて複数回の事象が起きたというそのこと自体が，長い道のりという捉え方と表裏一体になって結びついている。道のり全体にかかる時間が長いからこそ，複数の事象が間隔をおいて起こり得るのである。ここに発話意図の散逸は感じられない。

以上の議論をまとめると，以下のようになる。

(15)　a. along the way は on the way と同様に「途中で，途中に」の意味を表し，空間的移動にも非空間的プロセスにも用いられる。

b. along the way を用いると，on the way の場合とは違って，話し手が the way の表す移動やプロセスを長い時間のかかる道のりと捉えていることが伝わる。

c. along the way はこの「長い時間のかかる道のり」という捉え方が発話内の他の箇所と有意義に絡み合うようにして（＝発話意図の一貫性を保つ形で）用いられる。

2 つのフレーズについての理解が本質的に深まったことは間違いない。(15) はおそらく「正しい」か「正しくない」かと言えば「正しい」だろう。しかし，本当にこれで終わりにしてしまってよいのだろうか？　この本質を覚えていれば，ただそれだけで，英語母語話者と同じように along the way を使えるようになるのだろうか？　(15) だけで along the way にまつわるすべての言語事実が予測できるのだろうか？

もし仮に予測できるのだとしても，(15) には別の観点からも疑問が残る。(15c) の発話意図の一貫性の部分があまりにも抽象的で，学習者が英語を話したり書いたりしているときに「そうだ，ここで along the way を使ってみよう」と発想しにくいのではないか？　さらに，仮に使ってみようと思ったとして，その文脈で along the way が本当に自然であるかどうかを確信をもって点検できるだろうか？　自分は有意義な絡み合いであるケースとそうでないケースを英語母語話者と同じように判別できていると自信をもつことは可能なのだろうか？

2.4. 「本質」の限界[9]

(15) に限界があるのは明らかである。(15) の本質を正しく覚えているだけでは説明のつかない言語事実がいくつも存在するのである。

たとえば，along the way は the way の後に経路を明示する修飾語句をつけず（たとえば前置詞句や here，there を続けるなどせず）に用いられる傾向が著しく強い。アメリカ英語コーパスの COCA で along the way の直後に来る任意の要素を検索し，150 件以上ヒットしたものを表にすると，次のようになる[10]。なお，along the way to の 292 件の中には to 不定詞と前置詞の to の両方が含まれているので，前置詞の to の場合の頻度をあらためて調べ[11]，その検索結果も書き加えてある。

表 1. COCA での｛along the way＋直後の要素｝の頻度

along the way＋直後の要素	用例数
along the way.	4267
along the way,	3640
along the way to	292
—along the way to（前置詞）	—135
along the way and	236
along the way?	191
along the way he	189
along the way I	152
along the way that	151

1 位・2 位と 3 位の間の頻度の差を見ると，along the way に修飾語句を直結させないのが圧倒的に普通であることがはっきりと分かる。3 位の along the way to は一見前置詞の to が用いられているように見えるが，この to は半分以上が to 不定詞の to であって，ゴール地点を表す前置詞の to ではない。along the way {he / I} は，along the way が節のはじめで用いられるパターンである。このように along the way は基本的には経路を明示する修飾語句をつけずに使うものである。ここで重要なのは，この特徴は on the way には見られないということである。次の表 2 を表 1 と比較されたい[12]。なお，on the way to の 5594 件の中には to 不定詞と前置詞の to の両方が含まれているので, 前置詞の to の場合の頻度をあらためて調べ[13], その検索結果も書き加えてある。

[9] 筆者は本稿を含めいくつかの論考（平沢 2019，2021）で，ある表現の使用例すべてに共通する特徴をその表現の「本質」と呼んでいる。「本質を追い求めるだけではダメだ」というのは「本質」をこのように捉えたうえでの主張である。
[10] 検索式は{along the way *}，検索日は 2021 年 1 月 12 日。
[11] 検索式は{along the way to.[i*]}，検索日は 2021 年 1 月 12 日。
[12] 検索式は{on the way *}，検索日は 2021 年 1 月 12 日。
[13] 検索式は{on the way to.[i*]}，検索日は 2021 年 1 月 12 日。

表 2. COCA での｛on the way＋直後の要素｝の頻度

on the way＋直後の要素	用例数
on the way to	5594
—on the way to（前置詞）	—5087
on the way.	3258
on the way home	1868
on the way out	1450
on the way back	1330
on the way down	712
on the way in	522
on the way up	506

このデータが示しているのは, on the way は経路表現を直結させずに使う頻度も高い (2 位) が, どちらかと言えば経路表現を直結させた方が高頻度だということである。このように，along the way と on the way には「経路表現とセットにして使うのがどれくらい普通か」に関して大きな差がある。この事実は，(15) の「本質」から予測できることではない。

また，on the way は be 動詞と直結させて（X be on the way）「X は（移動や非空間的プロセスの）途中にいる，途中である」という意味で用いることも多いが，along the way ではそのような使い方（X be along the way）は非常に稀である。以下に COCA での検索結果を示す（検索式は ｛[vb*] along|on the way｝で，検索日は 2021 年 1 月 10 日）。

表 3. be 動詞との直結

	用例数
be along the way	17
be on the way	3638

このこともまた (15) から自動的に導かれることではない。

他に，非空間的なプロセスの途中を表す用法に関して意味の違いが見られる。on the way は例文 (4) にあるように妊娠から出産までのプロセスの途中だということを言うのによく用いられるが，along the way にこの用法はない。逆に，人生やキャリアの中でどのような人間や出来事に出会うことになるかを語るときにはもっぱら along the way が用いられる。こうした事実もまた，(15) だけ覚えていれば自分で予測できるという性質のものではない。

となると，along the way を英語母語話者と同じように使えるようになるためには，(15) という抽象的な本質を理解するのに加えて, もっと具体的な使用パターンを身につける必要がある，ということになる。ここで言う具体的な使用パターンというのは，他のどんな単語と一緒に用

いられやすいかとか，どのような場面・状況の中で用いられやすいかとかいったパターンのことである。したがって，ここで筆者が言おうとしているのは，along the way という 3 語よりももっと大きな塊を単位として記憶する必要があるということ，そして，アウトプットの現場（話したり書いたりする場）ではその大きな塊全体の知識を参照するように心がける必要があるということである。この「大きな塊」について次節で詳しく見ていきたい。「発話内の他の箇所との有意義な絡み合い」の条件が抽象的すぎて，満たされているかどうかの点検が難しいという問題についてもその中で解消したい。

3. もっと大きな塊へ

3 節では，along the way を含んだ「大きな塊」をいくつか挙げていく。具体的には 3 種類を提示するが，筆者はこの 3 種類は相互排他的なものだと主張しているわけでもなければ，この 3 種類以外にないと主張しているわけでもないことに注意されたい。

3.1.［somewhere along the way］

1 つ目は somewhere along the way「（長い道のりの）途中のどこかで」である。これ全体が非常に高頻度の表現であり，母語話者であれば塊として記憶しているものであると考えられる。すでに挙げた例で言うと (14) が該当する（以下に (16) として再掲）が，筆者が出会った実例を 2 つ加えておく。

(16) Go towards the church, you will meet your guide <u>somewhere</u> **along the way**. (=(14))

(17) ［状況説明］語り手はホテルに宿泊している。ある日，隣の部屋に泊まっている Lindy という女性と一緒に，入ってはいけないはずのボールルーム（舞踏会場）の舞台に上がり，触ってはいけないはずのトロフィーを手に持っているところを誰かに目撃されてしまう。2 人は一目散に逃げ出し，自分たちの泊まっているフロアに戻る。

I don’t remember how we got back to our floor. I was lost again in a mess of curtains coming off the stage, then she was there pulling me by the hand. Next thing, we were hurrying through the hotel, no longer caring how much noise we made or who saw us. <u>Somewhere</u> **along the way** I left the statuette on a room-service tray outside a bed- room, beside the remains of someone’s supper. (Kazuo Ishiguro, “Nocturne”)

おれたちのフロアまでどうやって戻ったのか，よく覚えていない。ステージから下りるとき，垂れ下がる幕の合間で迷子になったが，リンディが手で引っ張り出してくれた。次に気づいたときは，二人でホテルの中を走っていた。いくら物音を立てようと，誰に見られようと，もうかまわずに走っていた。途中，どこかの客室の外にルームサービスのトレーを見つけ，夕食の食べ残しの横にトロフィーを置いてきた。

（土屋政雄（訳）「夜想曲」）

(18) ［状況説明］夫から妻への発話。妻は CEO で仕事ばかり，夫は別の女性と浮気，と

いうように 2 人は最近うまくいっていない。

I thought I could be the guy I told you I was going to be. And then somewhere **along the way** I thought I was losing you. But it was actually me. I got lost.　（映画 *The Intern*）

約束した通りの男になれると思っていたんだ。そしたら，あるとき気付いたら，ジュールズが離れていってしまっているような感じをもっていた。でも本当は自分がいけなかったんだ。僕が道を見失っていたんだ。

(17) では必死の逃走が「長い道のり」に対応し，その長い道のりのどこだか分からない地点や時点が somewhere along the way と表現されている。

この表現の COCA での頻度を somewhere on the way と比較すると次のようになる（2021 年 1 月 11 日検索）。

表 4. somewhere との直結

	用例数
somewhere along the way	616
somewhere on the way	17

この表に関して注意しなければならないのは，どんな場合でも somewhere along the way の方が somewhere on the way に比べて自然になるわけではないということである。2.3 節で見た通り，along the way を使う際には「長い道のり」の示唆が関わることになる。もしも somewhere を使いながらも「長い道のり」を示唆すると不自然である場合には，下の (19) が示すように，somewhere along the way が不自然になり，somewhere on the way が自然になる。

(19)　It's a one-minute walk from here to there, but it's very dark outside. So please be careful not to drop something somewhere {**on** / ?**along**} **the way**. It'd be hard to find.　（作例）

ここからそこへは徒歩 1 分ですけど，外はすごく暗くなっています。ですから，途中のどこかで物を落としたりしないように気をつけてくださいね。落としたら見つけるの大変ですよ。

したがって，表 4 が示しているのは，英語母語話者は「途中のどこかで」を伝達したいときならいつでも somewhere along the way と言いがちだということではなく，英語母語話者は somewhere along the way を用いて「(長い道のりの）途中のどこかで」の意味を伝達するということをしがちだ，ということである。

ここで「発話内の他の箇所との有意義な絡み合い」について考えておこう。実は，somewhere along the way を用いて「(長い道のりの）途中のどこかで」の意味を伝達しようと思った場合には，along the way の持つ「長い道のり」の示唆が他の部分と有意義に絡み合っているかどうか

を点検するという作業は強いられずに済む。なぜならば，somewhere along the way の somewhere がすでに有意義な絡み合いの相手になっているからである（詳細は2.3節参照）。somewhere along the way と言っている以上，道のりの長さの示唆が発話意図の一貫性を乱して唐突に現れたという印象は与えないのである。

3.2.［散らばった複数回の事象＋along the way］

すでに述べたことであるが，along the way は散らばった複数回の事象とともに用いられることがよくある。したがって，たとえ (15) という本質によってカバーされるとしても，母語話者の脳内には［散らばった複数回の事象＋along the way］という大きな塊が保存されており，この知識が発話の現場で参照されている可能性が高い。すでに挙げた例 (1)，(3)，(5)（以下に再掲）に加えて (23)-(25) がこのパターンに該当する。

(20) Well, I'll be glad to take you home. But we'll have to make a few stops **along the way**. (Cf. (1))

(21) There were some obstacles **along the way**. But eventually my dream came true. I became an architect. (Cf. (3))

(22) a. Dumber's curiosity led him to perform a series of stops and starts **along the way**. (Cf. (5a))

b. We had a few problems **along the way**. (Cf. (5b))

(23) […] but more dangerous to the future of the gallery were the defections of the half dozen or so real artists Harry discovered **along the way**. (Paul Auster, *The Brooklyn Follies*)

[…] しかし画廊にとってもっとダメージが大きかったのは，画廊を経営していく中でハリーが発見した 5，6 人の本物の芸術家たちが，彼を見捨てて街を去ってしまったことだった。

(24) ［状況説明］歌手 Taylor Swift の 2016 年 2 月のグラミー賞授賞式でのスピーチ。

And as the first woman to win Album of the Year at the Grammy's twice, I want to say to all the young women out there: There're going to be people **along the way** who will try to undercut *your* success, or take credit for *your* accomplishments or your fame. But if you just focus on the work and you don't let those people sidetrack you, someday when you get where you're going, you'll look around and you will know that it was you, and the people who love you, who put you there. And that will be the greatest feeling in the world. Thank you for this moment.

(https://www.youtube.com/watch?v=dMCAEUb0h34)

グラミー賞の最優秀アルバム賞を二度受賞した初の女性として，この世界にいる全ての若い女性に伝えたいことがあります。人生のどこかできっと，あなたの成功を阻む人や，あなたが成し遂げた業績なのに，あなたの名声なのに，それを横取りしようとする人に出会います。しかしそこで目の前の仕事に集中して，そういう人たちに惑わされないようにしていれば，いつの日か自分の目標とするところに辿り着いたとき，

周りを見渡して，気がつくでしょう。そこに辿り着くことができたのは，自分が頑張ったからなんだ，そして自分を愛してくれる人たちがいたからなんだ，と。そしてこの世にこんな快感があったのかと驚くことでしょう。みんな，この瞬間をどうもありがとう。

(25)　We ate and ate until we literally couldn't take another bite, applauding our efforts **along the way**.
(Emily Giffin, *Something Blue*)

途中何度も自分たちの努力を讃えながら私たちは食べに食べ，誇張でなくもう一口も入らないほど満腹になった。

ここで再び「発話内の他の箇所との有意義な絡み合い」について考えよう。［散らばった複数回の事象＋along the way］という塊を用いて「(長い道のりの）途中で事象が大きな時間間隔をおいて複数回生じる」という意味を伝達しようと思った場合には，along the way の「長い道のり」の示唆が発話意図の一貫性を乱していないかをあらためて点検する必要はない。2.3 節ですでに述べた通り，大きめの時間間隔をおいて事象が繰り返されるとき，全体としては相当の時間が経過しているはずであるから，along the way によって「長い道のり」が示唆されてもなんら唐突には感じられないのである。

3.3.　［計画していなかった事象＋along the way］

「長い道のりの途中で，人や物，状況と意図せず出会う」（これを [i] とする）とか「長い道のりの途中で，計画していなかった行為をすることになる」（これを [ii] とする）とかいったことを述べるのに along the way は非常によく用いられる。[i] と [ii] をまとめるならば，［計画していなかった事象＋along the way］とまとめることができるだろう。

[i] については，本稿で挙げた例で言うと，(3)，(5b)，(7)-(9)，(18)，(23)，(24) が該当する。以下に再掲する。

(26)　There were some obstacles **along the way**. But eventually my dream came true. I became an architect.　(Cf. (3))

(27)　We had a few problems **along the way**.　(Cf. (5b))

(28)　We knew that the cab to Hilltop would be fifteen dollars each way, so that meant I had only twenty dollars extra to buy food or anything else I might need **along the way**.　(Cf. (7))

(29)　**Along the way**, I see no sign of another tribute, not a puff of breath, not a quiver of a branch.
(Cf. (8))

(30)　He got shot a few times **along the way**, but survived.　(Cf. (9))

(31)　I thought I could be the guy I told you I was going to be. And then somewhere **along the way** I thought I was losing you. But it was actually me. I got lost.　(Cf. (18))

(32)　[…] but more dangerous to the future of the gallery were the defections of the half dozen or so

real artists Harry discovered **along the way**. (Cf. (23))

(33) There're going to be people **along the way** who will try to undercut *your* success, or take credit for *your* accomplishments or your fame. (Cf. (24))

[i] の用法では along the way を there 構文や他動詞の meet と一緒に使っている例が数多く見つかる。以下に COCA からの例を挙げる。

(34) a. It's been an exciting adventure, but <u>there have been</u> a few surprises **along the way**. (COCA)
楽しい冒険だったが驚くようなことも途中何回かあった。

b. <u>There are</u> so many discoveries **along the way**. (COCA)
その過程でたくさんの発見をする。

(35) a. The natives he <u>met</u> **along the way** had never seen a Westerner and marvelled when he lit a match. (COCA)
彼が道中出会った原住民たちは，それまで西洋の人間を見たことがなかったので，彼がマッチに火をつけたときには仰天していた。

b. I loved studying and working at Ohio University and <u>met</u> some amazing people **along the way**. (COCA)
オハイオ大学での研究・勤務は最高でした。働く中で素晴らしい人々に出会えました。

[ii] については，(17) に注目すると理解が深まると思われる。一部を (36) として再掲する。

(36) Somewhere **along the way** I left the statuette on a room-service tray outside a bed- room, beside the remains of someone's supper. (Cf. (17))

トロフィーをこの場所に置く行為は意図的行為なのだが，前もってトロフィーをここに置こうと計画していたわけではない。したがってこの例は［計画していなかった事象＋along the way］の事例だと言える。なお，以下に再掲する (5a) についても（コンテクストが分からないため断言はできないものの）おそらく立ち止まったり動き出したりを繰り返すことをはじめから計画していたという話ではないだろう。

(37) Dumber's curiosity led him to perform a series of stops and starts **along the way**. (Cf. (5a))

［計画していなかった事象＋along the way］で「(長い道のりの）途中で計画していなかった事象が生じる」という意味を伝達しようと思った場合には，along the way の「長い道のり」の示唆が発話意図の一貫性を乱していないかの点検は不要になる。というのも，意図せぬ出会いや，計画していなかった行為の必要性というのは，全体としての道のりが長ければ長いほど発

生しやすくなるからである。日本語で考えてみよう。「長い道のりの途中で昔の恋人にばったり会った」と言われたら，「長い道のりだったからこそそのようなチャンスもあったのだろう」とすぐに納得でき，「長い道のり」が偶然の出来事と有意義な形で結びついている。これとは対照的に，「長い道のりの途中で予定通り郵便ポストに手紙を投函した」と言われると道のりの長さがその発話とどのように関係しているのかよく分からないと感じられる。「長い道のり」が発話内の他の部分と有意義に結びついておらず，余計な補足情報にしかなっていない。［計画していなかった事象＋along the way］という大きな塊を使っていれば，このような「ちぐはぐ」は発生しないのである。

本節 3.3 で挙げた［計画していなかった事象＋along the way］の例には，［somewhere along the way］や［散らばった複数回の事象＋along the way］の例でもあるものが含まれているが，「大きな塊」は相互排他的なものではないことは 3 節の冒頭ですでに指摘した通りである。

3.4. まとめ

along the way が用いられる「大きな塊」には，［somewhere along the way］，［散らばった複数回の事象＋along the way］，［計画していなかった事象＋along the way］などがある。さらに，［計画していなかった事象＋along the way］の用法でよく用いられる言い回しに［there be X along the way］や［meet X along the way］などがある。(15) の抽象的な本質に加えて，こうした具体的な使い方を覚え，その具体知識を参照しながらアウトプットを行うという心がけ・姿勢を持つことが，along the way を英語母語話者と同じように使えるようになることにつながるのである。以下の図に照らして言うと，太枠で表示されているものを含め，along the way よりも大きな単位の知識を参照して英語をアウトプットするようにすることが大切だということである。なお，参考のために，いくつかの例文についてそれがどの知識を参照して発話されたと考えられるかを示してある。

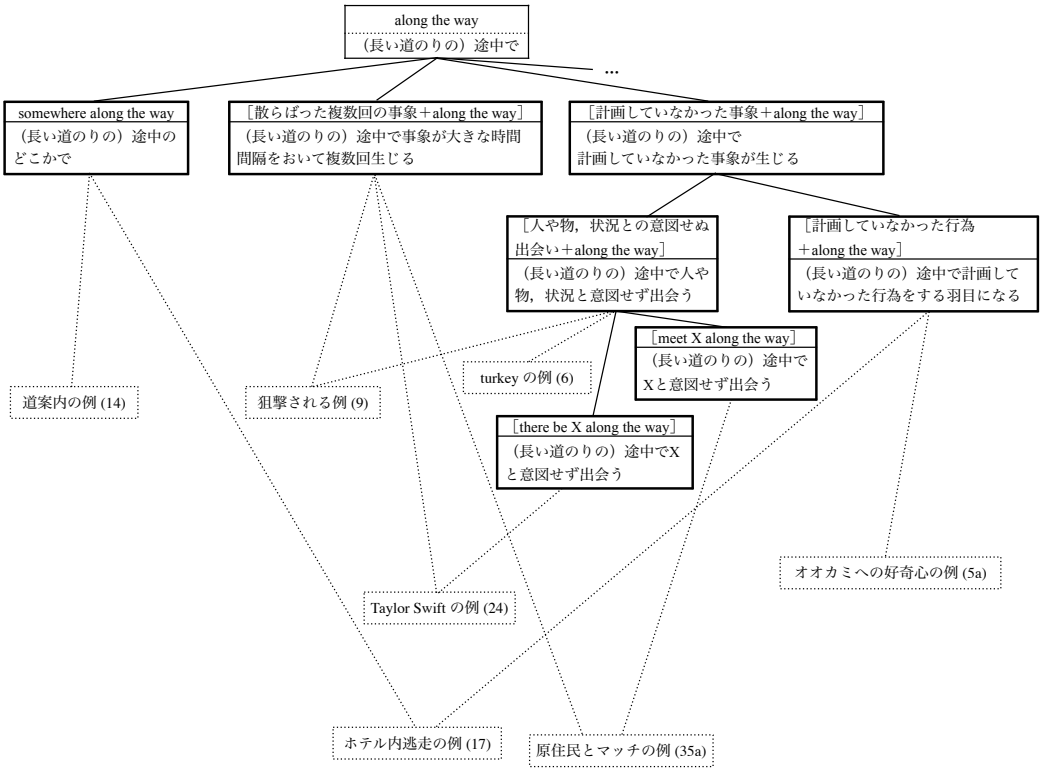

図 1. along the way に関する知識と，その知識により生み出される例文

3.5. on the way についても同様

3 節の最後に，on the way についても「大きな塊」の記憶と参照が重要であることを簡単に指摘しておきたい。

すでに述べた通り，on the way は along the way とは違って，be on the way という形でも頻繁に用いられる。「（道のりの）途中である」の意味で，空間的移動にも非空間的プロセスにも用いられる（Petré et al. 2012）。まず，経路表現が後続する例は以下の通り。

(38) The first time I rode in a limo I was five. I **was on the way** <u>to my grandfather's funeral</u>.

(*How I Met Your Mother*, Season 1, Episode 11)

俺が初めてリムジンに乗ったのは 5 歳のときだった。爺さんの葬式に向かっていたんだ。

(39) Many of us wonder **am** i **on the way** <u>to success</u>?

(https://share.bizsugar.com/Self-Development/are_you_on_the_way_to_success/；原文ママ)

自分は成功に向かっているだろうかと考える者は多い。

続いて，経路表現が後続しない例は以下の通り。(42)-(44) のように「（子どもが）産まれる予定である」の意味を表す用法が定着していることに注意したい。

(40)　Pizza**'s on the way**, just poured myself some red into my favourite glass.
(https://twitter.com/PeteOtway/status/909506822549262336)
ピザが来るから，お気に入りのグラスに赤ワインを入れたとこ。

(41)　More layoffs are said to **be on the way**.　(https://learnersdictionary.com/definition/way)
また解雇される人が出るという噂だ。

(42)　This dad's reaction is priceless after finding out his first son **is on the way**.
(https://fb.watch/2ZeioOUvZO/)
初めての男の子と分かった時のこのパパさんのリアクションはもう最高。

(43)　At 30, I had to have an insolent success, being married to the perfect woman, maybe a kid **on the way**.　(*How I Met Your Mother*, Season 4, Episode 20)
俺の当初の予定では，30 歳のときにはもう偉くなってブイブイ言わせてて，奥さんはそりゃもう最高の女性で，あわよくば子どもも生まれそうっていうはずだったんだ。

(44)　I had a new boyfriend, new girlfriends, a new best friend in Ethan, and two babies **on the way**.
(Cf. (4))

ただし出産予定用法の be on the way は，(43) と (44) にあるように，be が顕在化しない場合の方が多いということも重要である。(43) は being 省略の分詞構文，(44)は have O C の構文が関わっている。ほかに with O C の構文を用いた with another baby on the way「またもう 1 人赤ちゃんがお腹の中にいて」などの言い方もある。このように，［be on the way to …］，［be on the way］，［（赤ん坊）(be) on the way］といった大きな塊を覚えることが，on the way を使いこなすためには欠かせない。

最後に，なかなか気が付きにくいかもしれない面白いパターンを紹介したい。次の実例を眺めていると，あるパターンが自然と浮かび上がってくるはずである[14]。

(45)　［状況説明］Kimmy が Ramona にポニーをプレゼントすると，Romona はそのポニーを Buttercup と名付ける。以下は Kimmy のセリフ：
Let's take Buttercup to Ghirardelli Square and get her some chocolate. I read somewhere that horses love chocolate. Or that it kills them. We'll google it **on the way**.
(*Fuller House*, Season 3, Episode 6)
バターカップをギラデリスクエアに連れていって，チョコを買ってあげようよ。どこかで馬はチョコが大好きって読んだことあるから。いや，チョコを食べると死んじゃうって話だった気も。歩きながらググればいっか。

[14] (47) は奥脇健太氏に提供していただいたものである。筆者が on the way のこうした用法に関心を持っているということを伝えたときに「最近自分も出会った」と教えていただいた。毎日大量の実例に触れて発見を報告し合える仲間がいることは奇跡としか言いようがない。

(46)　［状況説明］Eleanor と Tahani は屋外で作戦会議をしており，オフィスの中にいる Shawn にある計画を受け入れさせるための準備を整えている。

Eleanor:　Now all we have to do is convince Shawn.

Tahani:　I'll take the lead. If I can convince Dr. Ruth not to sue Bruno Mars over songwriting credit on "Uptown Funk," I can handle this.

Eleanor:　Okay, you gotta tell me that story **on the way**.

(*The Good Place*, Season 4, Episode 10)

エレノア：　あとはショーンを説得すればOKね。

タハニ：　私に任せて。私，ドクター・ルースが「アップタウン・ファンク」の作曲クレジットのことでブルーノ・マーズを訴えようとするのを止められたんだから，今回もいけるはず。

エレノア：　よし，その話は歩きながら教えてもらうわ。

(47)　［状況説明］舞台はジョージア州。主人公 Patty は，子どもに対する性的虐待の噂のある弁護士にアドバイスを受けながら，ミスコンに出場しようとしている。以下は，Patty の親友 Nonnie が知人 Donald に「Patty を助けにアラバマ州に行かないといけないから車を貸して」と発言した直後の場面。

Donald:　What ... what's wrong with Patty?

Nonnie:　Her alleged child molester lawyer-slash-beauty-pageant-coach is taking her across state lines. And I'm scared something bad's gonna happen. Long story.

Donald:　You can tell me **on the way**.　(*Insatiable*, Season 1, Episode 3)

ドナルド：　パティーに何かあったのか？

ノニー：　子どもに性的虐待したって噂の弁護士兼ミスコンコーチに連れ出されて，別の州に向かってる。何かまずいことが起こりそうな気がして怖いんだ。話せば長くなるんだけど。

ドナルド：　それじゃ車の中で聞くわ。

これらの例に共通しているのは，話し手か聞き手（またはその両方）が今すぐに行為 X をしようとしていたのだが，それを今すぐするのではなく先延ばしにして，移動 Y を開始してからにしよう（移動 Y の途中にしよう）と提案している，ということである。さらに，移動 Y の行き先がどこになるのかを話し手と聞き手で了解し合っているという点も共通している。表現としては，We'll，You gotta，You can というように提案表現が用いられている。このように，［提案表現＋on the way］という大きな塊が，発話状況および発話意図とセットになって浮かび上がってくる。こうした知識—on the way 自体よりも大きな単位の知識—を参照して英語を使うことが，英語らしい英語を発信することにつながるのである。

4. 結語

本稿では，on the way と比較しながら，along the way の抽象的な「本質」を記述したうえで，言語使用の現場では along the way を含んだ「大きな塊」の知識を参照するべきである（そして on the way についても同様である）ことを主張した。ここには大きく分けて 2 つのポイントがある。

1 つ目の観点は発話意図の一貫性である。本稿で取り上げた「大きな塊」には発話意図の一貫性が見られる。たとえば somewhere along the way では，道のりの長さと関連したことを言いたいという発話意図が somewhere の部分にも along the way の部分にも共通して関わっていると考えられる[15]。ただし，大きな塊といっても，あまり大きくしすぎると発話意図が散逸してしまう。たとえば，somewhere along the way の前後 500 語まで含めてずっと「道のりの長さと関連したことを言いたい」という発話意図が持続しているということはまずないだろう。本稿で取り上げた somewhere along the way，などは発話意図が一貫する範囲内で大きな単位を取り出していると言える[16]。

2 つ目の観点は記憶量である。実は along the way がそもそも along という前置詞単体に比べて「大きな塊」なのであるから，本稿は「さらに大きな塊」を覚えるべきだと言っていることになる。これは記憶するべき量もさらに増すことを意味する。along だけ覚えるのではダメで，along the way についての事実も覚える必要がある，いや，さらには along the way を含んだもっと大きなパターンについての事実も…と言っていることになるからである。このことは以下の図のように整理できるだろう。

---

[15] この考え方は，発話の構成要素（たとえば単語）の意味の習得の本質を発話意図の割りふりに見いだす Tomasello（2003）の発想と軌を一にするものである。

[16] このことは，Sinclair（2004; Chapter 2）が，意味は大きな単位に宿るものだとし，たとえば naked eye の意味を invisible to the naked eye や too small to see with the naked eye など「肉眼では見えにくい」という内容を伝達する大きな塊に求めながらも，それよりもさらに大きな塊には注目していないということとも密接に関連しているように思われる。Sinclair はおそらく発話意図の一貫性が保たれる範囲内で最大の単位を取り出しているのである。

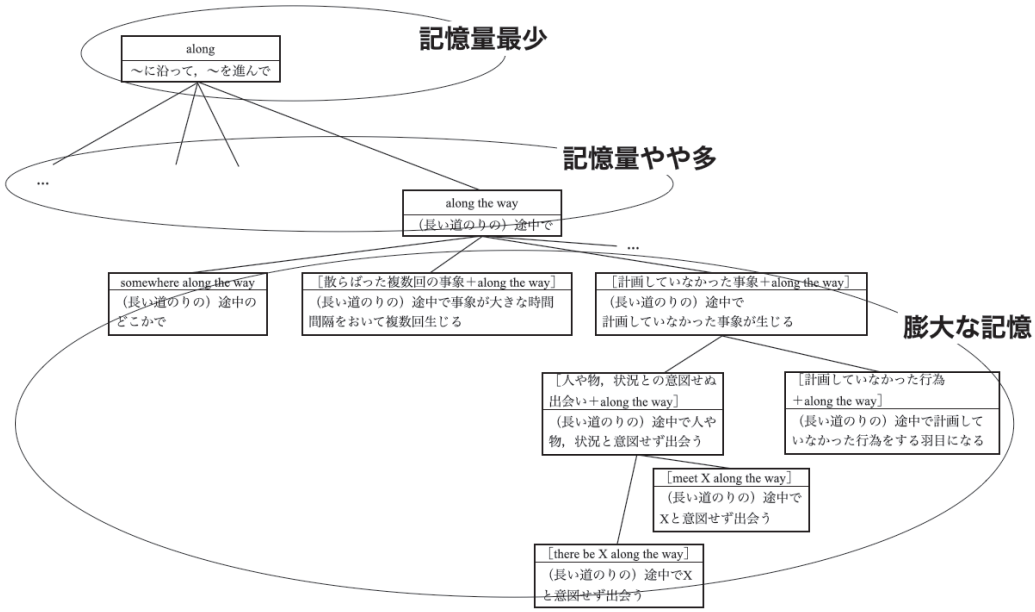

図 2. 表現のサイズと，必要となる記憶量の関係

もしも英語母語話者と同じようにして英語を使えるようになりたいと本気で思うのならば，along the way や on the way に限らず，膨大な記憶が欠かせない。「take という動詞はこれこれのイメージ」とか「by という前置詞のコアはこれこれ」といった「本質」に関する少量の記憶だけに基づいて英語を話したり書いたりすると，母語話者なら普通は言わないような英語を大量に産出してしまうことになる。

英語母語話者と同じようにして英語を使えるようになりたいと本気で思うのならば具体的な表現の膨大な記憶が欠かせないというこの主張は，言語学的には，Ronald W. Langacker が作り上げた認知文法という理論から必然的に導かれるものである。Langacker 自身が以下のように述べていることに注目されたい。

(48) There are literally thousands of these **conventional expressions** in a given language, and knowing them is essential to speaking it well. This is why a seemingly perfect knowledge of the grammar of a language (in the narrow sense) does not guarantee fluency in it; learning its full complement of conventional expressions is probably by far the largest task involved in mastering it. (Langacker 1987: 35-36；強調は原文)

どの言語をとってみても，こうした慣習的な言い回しが誇張でなく何千何万とあるのであり，それらを知っていることがその言語を上手に話すためには欠かせないのである。だから，ある言語の（狭い意味での）文法を完璧に知っているようであっても，それはその言語を滑らかに使いこなせることの保証にはならない。その言語を構成する様々な慣習的な言い回しを覚えることこそ，おそらく，その言語を習得するために

すべきことの中で，他とは比較にならないほど重要なことなのである。

近年日本では「認知文法は暗記を減らして英語学習を楽にしてくれるから英語教育に導入していこう」という動きが見られるようであるが，これは認知文法に対する大きな誤解を含んでいる。認知文法は膨大な学習に基づく大量の記憶を徹底的に重視する言語理論である。そして，言語を話したり書いたりするときにも，聞いたり読んだりするときにも，抽象的な知識よりも具体的な知識の方がアクセスされやすい（図 2 に照らして言い直すと，下の方にある知識の方が上の方にある知識よりも活性化されやすい）と考える（Langacker 1999；西村 2015: 228-229）。Langacker は認知文法を母語に関する理論として提示しているが，ある論文（Langacker 2001）の中で，具体的な表現を大量に記憶していることが必要になるのは外国語の学習に関しても変わらないという趣旨のことを（自身のフランス語での失敗体験に触れながら）述べている。Langacker の記憶重視の側面について日本語で理解を深めたい場合には宮脇（2010）や平沢（近刊 b）などを参照されたい。

もちろん，英語という外国語を英語母語話者と同じように使いこなせるようになりたいとは思わない，だいたいの意味が通じる英文が話したり書いたりできればそれで OK，という考え方もありえる。その場合には，本稿が強調しているような「大きな塊」（具体的な表現や使用パターン）を大量に記憶する必要はないかもしれない。単語単体と抽象的な文法（図 2 に照らして言えば上の方にある知識）を 5 年か 6 年くらい短期集中的に叩き込むだけでも十分かもしれない。しかし，もしも英語という外国語を英語母語話者と同じように使いこなせるようになりたいと本気で思い，その目標を中身のない枕詞でもなくジョークでもなく本気で掲げるのであれば，存在する膨大な表現パターンを記憶していくキリのないプロセスから逃れることはできない。「逃れることはできない」というとネガティブに響くが，筆者自身にとってはむしろこのキリのなさが日常の幸福につながっているように思われる。毎日，実例に触れながら，よくある言い回しを発見し，「今度使ってみよう」と思いワクワクする。この体験がおそらく死ぬまで続くのだろうと思える。だから，安心して毎日の英語学習を楽しめるのである[17]。

参考文献

Davies, Mark. (2008-) *The Corpus of Contemporary American English (COCA)*. Available online at https://www.english-corpora.org/coca/.

平沢慎也 (2019)「英語の接続詞 when—「本質」さえ分かっていれば使いこなせるのか—」『認知言語学を紡ぐ』161–182. 東京：くろしお出版.

平沢慎也 (2021)「関係代名詞 what：本質さえわかっていれば使いこなせるのか」『英語教育』70(2): 60–61. 東京：大修館書店.

平沢慎也（近刊 a）『実例が語る前置詞』東京：くろしお出版.

[17] 前置詞を対象とした実践については平沢（近刊 a）を参照されたい。

平沢慎也（近刊 b)「見えなくなっていく前置詞，使えるようになってくる表現：記憶重視の認知文法が教えてくれること」

本多啓 (2006)「認知意味論，コミュニケーション，共同注意：捉え方（理解）の意味論から見せ方（提示）の意味論へ」『語用論研究』8: 1–14.

小西友七（編）(2001)『英語基本名詞辞典』東京：研究社出版.

Langacker, Ronald W. (1987) *Foundations of cognitive grammar,* Vol. 1: *Theoretical prerequisites*. Stanford: Stanford University Press.

Langacker, Ronald W. (1999) A dynamic usage-based model. *Grammar and conceptualization*. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.

Langacker, Ronald W. (2001) Cognitive linguistics, language pedagogy, and the English present tense. In: Martin Pütz, Susanne Niemeier and René Dirven (eds.) *Applied cognitive linguistics I: Theory and language acquisition*, 3–39. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.

宮脇正孝 (2010)「認知言語学と英語教育：「膨大な学習」と「慣習的表現」について」『専修大学外国語教育論集』38: 53–7.

西村義樹 (2015)「用法基盤モデル」斎藤純男・田口善久・西村義樹（編）『明解言語学辞典』228–229. 東京：三省堂.

Petré, Peter, Kristin Davidse and Tinne Van Rompaey (2012) On ways of being on the way: Lexical, complex preposition and aspect marker uses. *International journal of corpus linguistics* 17(2): 229–258.

Sinclair, John (2004) *Trust the text: Language, corpus and discourse*. London: Routledge.

田中太一 (2021)「言える言えない問題を考える：認知言語学の観点から」『The Basis: 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要』11: 133-144.

Tomasello, Michael (2003) *Constructing a language: A usage-based theory of language acquisition*. Cambridge: Harvard University Press.

Along the way: How It Differs from *on the way*

Shinya Hirasawa
s-hirasawa@keio.jp

Keywords: construal, consistency in communicative intention, units of linguistic knowledge, Cognitive Grammar

Abstract

The English conventional expression *along the way* may at first blush seem to be synonymous with another conventional expression, *on the way*, in that they both locate a person or thing between the starting point and endpoint of a spatial or metaphorical path. On closer inspection, however, it turns out that the former involves a speaker construal the latter does not, in which the (spatial or metaphorical) motion is conceived to be one that takes a considerable amount of time. This speaker construal is contextually relevant in attested usage patterns. By way of illustration, consider the [MULTIPLE OCCURRENCES *along the way*] construction (e.g., *He got shot several times along the way*). It is mostly used to describe an event whose multiple occurrences are widely distributed along the (spatial or metaphorical) path in question. If they happened in rapid succession, *on the way* would be preferred over *along the way*. It is obvious that the above-mentioned speaker construal is playing a role here. Much the same goes for other usage patterns such as [*somewhere along the way*] and [UNPLANNED EVENT *along the way*]. However, this semantic aspect of *along the way* does not predict how the phrase is used in every respect. For instance, the fact that *along the way* is seldom if ever followed by a preposition (e.g. *to*) cannot be derived from it. Learners of English who wish to acquire a native-like command of *along the way*, therefore, have to learn a vast repertoire of linguistic units, all larger than the phrase itself, such as [MULTIPLE OCCURRENCES *along the way*], [*somewhere along the way*] and the like.

（ひらさわ・しんや　慶應義塾大学）